

「データビリティ」におけるミッション

1

データ駆動型研究推進



- 研究者マッチング
- 分野固有のノウハウを考慮した研究計画の設計

2

二次利用可能なデータベースと世界標準



- 大学という公共性を利用し、「オプトイン」による匿名化被験者データ収集

- ◆ 大阪大学キャンパスを超スマートシティと想定した、1000人エキストラによる群衆行動データ、教職員ボランティアによるライフログデータ
- ◆ 生物学的・医学的データと臨床データの連結データベース

3

実践型人材育成

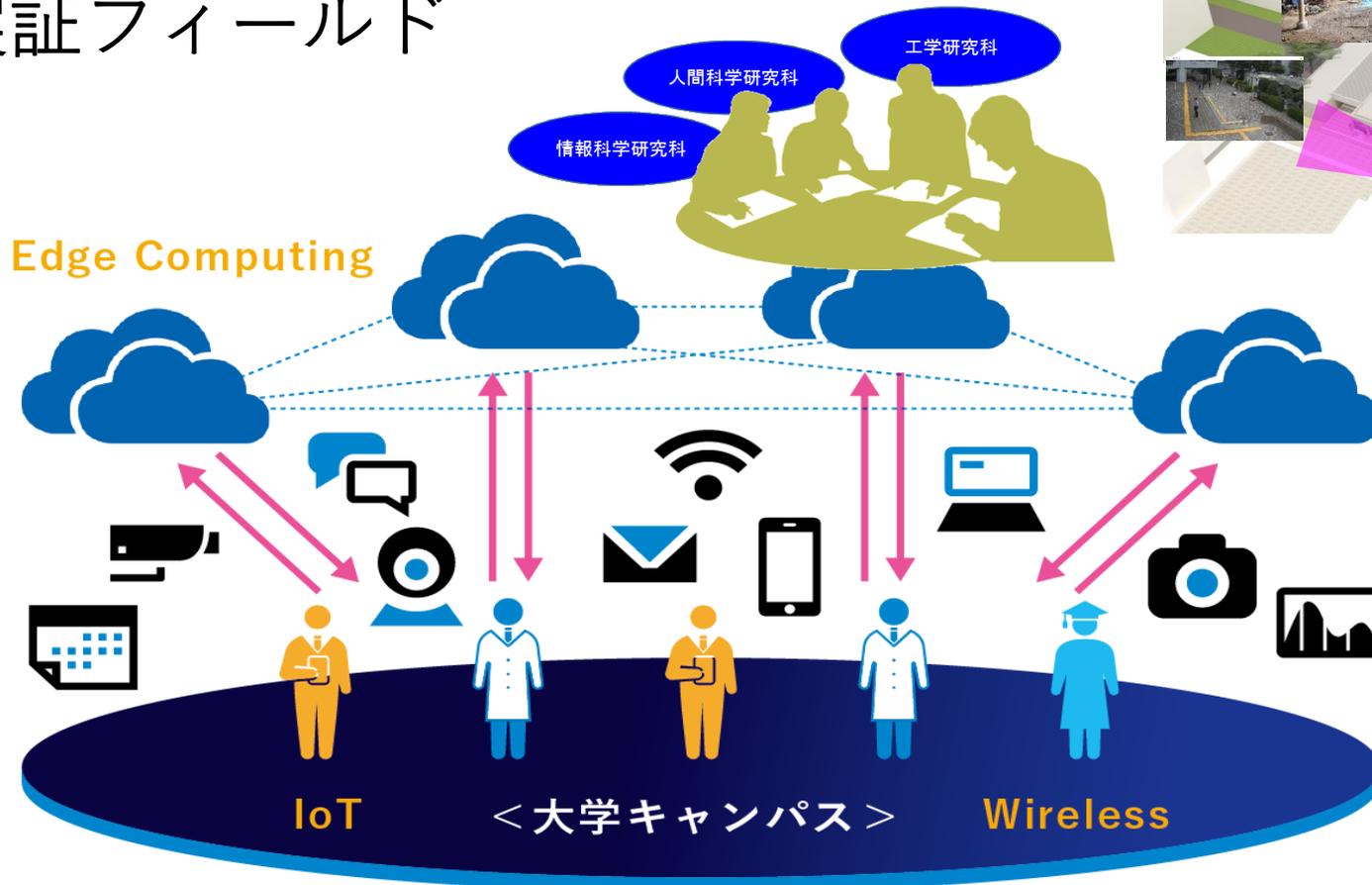


- OJTによる課題解決実践プログラム
- 基礎から実践までの一貫教育（講義とOJTの併用）
- ニーズに合わせたアラカルト形式の教育プログラム



スマートキャンパス

大学発 超スマート社会を目指す 実証フィールド



- ◆ 大阪大学内の人々の活動状況センシング+キャンパス内ライフログ収集
- ◆ アンビエントな情報サービスの提供
 - 授業・講演会、実験、通学、防犯に役立つサービス、訪問者支援
 - 研究室や大学のエネルギー削減
 - 教職員&学生の健康管理や見守り、クラブ活動の安全性確保など
- ◆ 大学内のシーズ技術を活用した知識創出

産学協働によるイノベーション人材育成

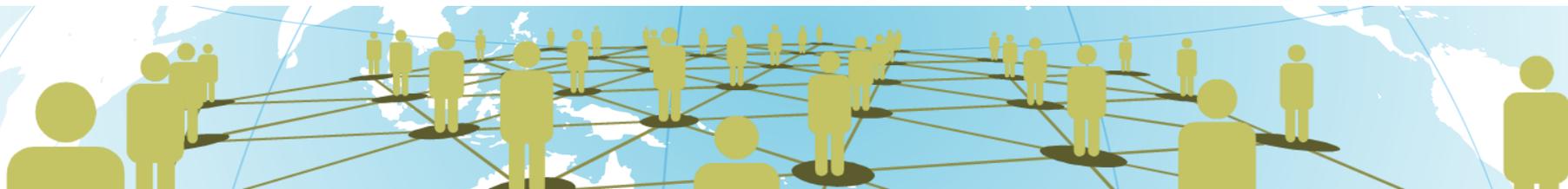
人材育成

俯瞰的な視点のもとで
社会とともに新しい方向性を模索



産業界との協働

産業界との幅広い協働によるインターン
シップや人材交流をさらに充実



大阪大学の産学共創の始動： 新たな枠組みの導入



左から、永山 治 中外製薬代表取締役会長
最高経営責任者、審良静男 iFReC 拠点長、
西尾章治郎 大阪大学総長

**2016年5月19日、
免疫学フロンティア研究センター
(IFReC)と中外製薬株式会社による
先端的な免疫学研究活動に関わる
包括連携契約を締結**

WPI Osaka University
iFReC



 ロシュ グループ

- 中外製薬(株)が10年間にわたり年間10億円を拠出。
- IFReCの世界最先端の免疫学研究と中外製薬(株)の創薬研究のノウハウが組み合わせられることで、基礎研究から臨床応用研究までの障壁が解消、免疫学分野における革新的新薬の創製が期待できる。

大阪大学モデルの新しい産学連携

未来を産業界そして社会と共に「Co-creation」する大学へ

産学連携の
第3ステージ

産学
共創

アプローチ

1

基礎研究段階からの包括的な産学連携

アプローチ

2

産学共創によるイノベーション人材育成

アプローチ

3

産学共創による若手研究者の雇用・育成

アプローチ

4

産学循環機能による男女協働の推進

第2ステージ

大学発シーズベースの共同研究の組織的展開

日本初

●共同研究講座・部門 開設

実績 50

●協働研究所 設置

実績 12

(●寄附講座 開設

実績 46)

平成29年4月1日現在

第1ステージ

技術相談・個別の共同研究

うめきた2期:産学官民の共創 「まち」と「みどり」によるイノベーション創出(ウェルネス)

※ 大阪市の構想に阪大が協力



学

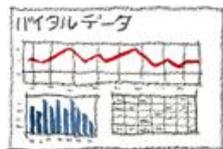


産学官+「民」による商品開発

産



ユーザー参加のマーケティング
(モニタリング、アンケート)



バイタルデータの収集と解析
(新技術の実証)



センシング



体験フィールドでのアクティビティ
(「みどり」の中で健康増進)

センシング

多様な人々の来訪



健康情報を利用者にフィードバック



先進的な新商品・試作品の提供

民

学長のリーダーシップのもとでの 共創。超スマート社会の実現

- 大学内でのSociety5.0実現（社会実装）においては、様々な事業による研究開発の成果を統合し、新たな展開を目指すことが必要であり、そのためには、学長のリーダーシップのもと、本部主導で推進できる組織が必要。
- Soceity5.0では、情報技術が体験したことのない社会を生み出す可能性がある。社会導入をスムーズに進めるためにも、学内にSoceity5.0の実証の場（未来都市、未来キャンパス）を作り、個人情報保護や新たな社会課題について学外のステークホルダーと協働しながら解決していくことが必要。
- 大学から社会への展開を考えるに、社会課題を明確に捉えた、多様な取組の連携を促進するための構想を、組織として学長のリーダーシップの下で実現する体制が不可欠。

Society5.0実現に必要なとされる大学の機能

• コーディネート人材

- 研究プロジェクトの進捗を踏まえつつ、それらの連携を促進する専門人材
- 大学と企業をつなぐ研究マネジメント人材／研究コーディネータ
- 現場と基礎研究を繋ぐ専門人材
- 実証実験コーディネータ

• 専門人材

- 異なる専門データを扱うことのできる専門情報人材
- データの高付加価値化（アノテーション作業）のための技術職員人材
- 実証実験エンジニア

• 実証&データマネジメント環境整備

- 大規模データの蓄積・分析・活用のための情報システムの整備
- スマートシティに代表される、多様なセンサ、カメラ、ロボット等をつなぐネットワーク環境整備
- リアルタイム情報収集・解析サーバーシステム
- 飛躍的研究力アップが期待できる、学内に点在する設備のワンルーフ化、共有化のための設備・施設整備

• その他

- 産学共創活動の高度化を行うための独立した法人を設置する費用